

平成28年度 学校評価・学校関係者評価

赤穂市立有年中学校

1 本年度の学校経営方針

◆学校教育目標 『正々堂精神』を『誇り』とし ころ豊かな生徒の育成』
～『志』高く、実行力ある、活力ある学校をめざして～

◆基本方針 「時代の風を感じ、風に向かい、風に乗れ、新たな風を興す気概ある生徒の育成」
 (1) 「個」をつなぎ、「考」を紡ぎあう『学び』から、さらなる高みを求める態度を養う。
 (2) よりよい生き方を目指し、『夢』と『志』を持つ豊かな人間性を培う。
 (3) 歴史と伝統に培われた「有年中の『誇り』」を胸に、地域とともに魅力ある教育環境づくりを進め新たな『風』を興せる活力ある人づくりに努める。

2 本年度の学校努力目標

- (1) 「確かな学力」を育成する。〔頭づくり〕
- (2) 「豊かな心」を育む。〔心づくり〕
- (3) 「すこやかな体」を培う。〔体づくり〕
- (4) 『誇り』を意識し、夢と志を大切に、よりよい生活を築こうとする自主的実践的な態度を養う。〔志〕
- (5) 特別支援教育の充実を図る。
- (6) 魅力ある学校づくり、地域に信頼される学校づくりを進める。

<調査人数> 11

3 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

総合的な学校関係者評価

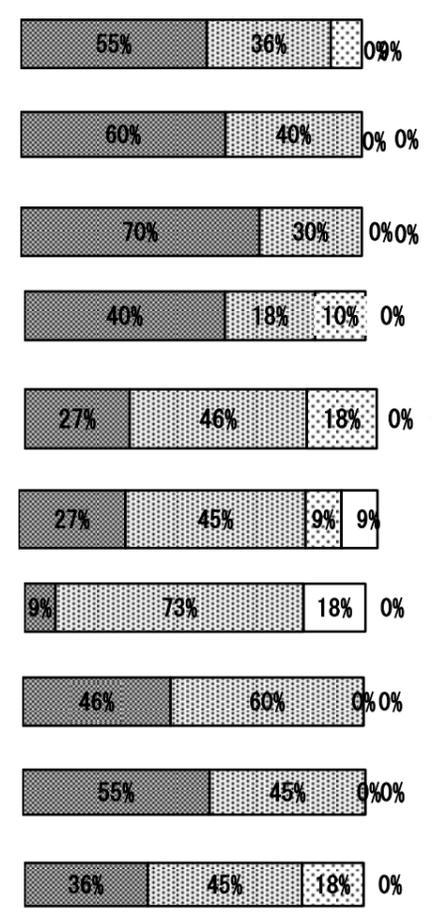
- 「正々堂精神」をモットーに有年中ならではの少人数だから他校にはできないことを大切にこのまま継続してもらいたい。学校家庭地域が一体となり進んで行ければと考えている。
- 学校努力目標を中心に、少人数を生かした工夫を継続してほしい。地域に人が学校へ行きやすい環境もある。今後も継続して地域へ情報を期待している。
- 少人数の特性を生かして生徒一人ひとりが「誇り」を持ち、個性を輝かせる教育が行われている。数々の賞を頂いたり、マスコミに取り上げられる機会が多く先生方の日々の取り組みが評価されていると思います。校歌にある「知徳を磨き、身を鍛え」が実践された結果だと思えます。今後も継続してもらいたい。
- 小規模校であるが、他の地域の方から「有年中学校」のような学校に通わせたいということをよく聴くことがあり、大変誇らしいことと思っている。
- 子どもにとって勉強は大切なことですが、将来どこで活躍するか分かりません。どんなことでもできる学力・生活力のある子どもに育てほしい。
- 部活動は人数も少なくなり、指導に先生方も大変だと思えますが、勝ち負けにこだわらず三年間でこの仲間が良かったと思うようになってほしい。

学校関係者評価

◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

学校努力目標

NO	評価項目	A	B	C	D
1	生徒には優しい言葉でわかりやすい授業を行っている。	6	4	1	0
2	授業の改善のための工夫を良くしている。	6	4	0	0
3	質問は大いに歓迎し、笑顔で対応している	7	3	0	0
4	生徒の考えをよく聞いて、ほめることをしている。	4	5	1	0
5	進路についての話をよくしている。	3	6	2	0
6	災害が起きたときを想定し、避難方法を具体的に話ししている。	4	5	1	1
7	生徒は毎日喜んで登校している。	1	8	2	0
8	楽しいクラスづくりに取り組んでいる	4	6	0	0
9	自他共に大切に思い、楽しく生きることを指導している。	6	5	0	0
10	「友」の大切さ、ありがたさ等よく話している。	4	5	2	0



●新たな課題と方策 ◆昨年度からの継続課題と方策

分析と改善の方策

※「確かな学力」を育成する

- 教師相互の授業公開を積極的に行い、協同学習で教師に直接聞けなくても生徒同士が学び合う授業のあり方を継続し、教科間を越え、学習のめあてが達成できているかのチェックを行い、授業改善の構築を図る。
- キャリア教育をより一層充実させ、保護者へのキャリア教育の啓発・定着を図り、3年間を見通した進路学習を構築し、自分の将来に夢や目標を持てる工夫が必要である。
- ◆基礎・基本の定着を図る学習指導について、学習タイムや週末課題を活用し、継続した学習習慣の確立を図る。

※「豊かな心」を育む

- 学校・生徒会や学級で行うことに対して、生徒に話し合わせたり、自分の考えを相手に伝える活動を通しお互いに繋がりを持つことが必要であることを感じ取らせる。生徒ともっと話をする工夫が必要である。
- ◆道徳だけでなく、清掃など毎日の生活の中に、絆や思いやり、人の大切さ、自分の責任を果たすことの大切さを指導していく。
- ◆クラスの所属意識を高めるため、学級の時間や学活を使っての仲間作り、また、学級討議を用いて問題点の共有化、改善策について話し合う機会を設ける。
- ◆生徒への関わりの中で努力を認める言葉かけを意識して行い、自己有用感を持たせることに努める。

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生時より、自らの将来を見とおせる力を付けるようにした継続的な指導をしてほしい。 ●小規模校の特徴を活かし、少人数や複数指導の体制を継続した形で、生徒たちがお互いに学び合っている「有年中スタイル」を充実させてほしい。 ●将来の夢を描き、目標を見据え、それに向かって自ら学ぶ意欲を引き出す教育は大切だと考えます。

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き「仲間づくり」を大切に指導を期待する。 ●あいさつが行え、オープンスクールや行事においても子どもが気持ちよく活動している。その中で人へ思いやり、自分の思いを伝えることができるように工夫してもらいたい。 ●仲間や家族、地域社会の中で自分の存在が有用であること、友だちもそうであることを感じることを学校で指導することは重要なことであると考えます。 ●小学校より一緒に進級してきており、お互いの大切さなどは理解しているはずだが、環境が同じ所で生活し、当たり前が重なり合いすぎておろそかになることがある。この微かな所を先生方は見落とさないようにしてほしい。

NO	評価項目	A	B	C	D
11	生徒が安心して生活できる居場所づくりを進めている。	6	5	0	0
		55%	45%	0%	0%
12	生徒の話を静かに優しく聴くことを大切にしている	6	4	1	0
		55%	36%	9%	0%
13	生徒がいじめや暴力のない学校生活を送れるよう取り組んでいる。	8	3	0	0
		73%	27%	0%	0%
14	努力していることの大切さを指導している。	7	4	0	0
		64%	36%	0%	0%
15	間違っただ行動に対して、厳しくわかりやすく指導している。	5	5	1	0
		45%	45%	9%	0%
16	思いやりの心や命を大切に学習を機会あるごとに指導している。	5	6	0	0
		73%	55%	0%	0%
17	道徳の時間では、資料を通して自分のことを振りかえる時間になっている	2	5	1	1
		22%	56%	11%	11%
18	「正々堂精神」で行動することのすばらしさを指導している。	5	5	1	0
		45%	45%	9%	0%
19	「早寝・早起き・朝ご飯」運動の意味を大切に、生徒を啓発している。	3	5	2	1
		27%	45%	18%	9%
20	部活動などで、生徒が体を動かすことができるよう工夫している。	3	5	2	0
		30%	50%	20%	0%
21	部活動などで、連帯感、成功感を味わせ、興味を持たせている。	4	5	1	0
		40%	50%	10%	0%
22	部活動では、「技」だけでなく、心の成長を大切にしている指導を行っている。	5	4	1	0
		50%	40%	10%	0%
23	「気づき、考え、行動する」を意識した、生活の充実さを指導している	5	6	0	0
		45%	55%	0%	0%



●新たな課題と方策 ◆昨年度からの継続課題と方策

分析と改善の方策
<p>※健やかな体を培う</p> <p>●「朝ごはん」は、ほとんどの生徒が食べている。しかし、食べない・時々食べる生徒が固定化している傾向がある。個別面談や保健だより等を活用し、保護者への啓発をより一層高める必要がある。</p> <p>●「いつ・どこで」災害が起きても、冷静に行動を起こし、自分の命を守ることができる多様な防災教育を行う必要がある。</p> <p>※よりよい生活を築いていこうとする自主的・実践的な態度を養う。</p> <p>●生徒会活動を中心とし、生徒が自ら気づき・考え・実践する活動を通して、生徒自ら考え決断するための支援していく必要がある。</p> <p>◆教師が意図的、定期的に、歴史と伝統ある「有年中の誇り」を機会を通じて考えさせ、生徒や教師のマンネリ化しがちな意識を再起させる。(意識改革)</p> <p>◆常にステップアップした課題を生徒に投げかけ、生徒自ら考え、行動する取組を創造させていく。</p>

※特別支援教育の充実
<p>◆1人ひとりの教育ニーズに対応した支援の1つとして、「しぶら教室学習(別室指導)」の取組を継続して行っている。今後も、保護者と定期的に話し合いを行い、個々の生徒のニーズに対応した特別支援教育の推進が必要である。</p> <p>◆支援が必要な生徒の個別支援計画を作成する。</p>

※魅力ある学校づくり、地域に信頼される学校づくりを進める。
<p>●「いじめ・暴力」追放に対して、教師集団の共通認識のもと、毅然たる態度を生徒に示し、生徒会の取組も活用していく。また、保護者や地域に対しネットでの誹謗や中傷等トラブル防止対策として、家庭で話しあい、決めた3ヶ条を実行するための保護者への啓発活動を行う必要がある。</p> <p>●魅力的な学校づくりに関して、おおむね達成できている。清掃活動も生徒の意識が高まってきている。登校・授業だけの「ノーチャイム精神」を意識するのではなく、学校生活の中心となることに教師自身も意識を高める必要がある。</p> <p>◆いじめ問題に対する「行動計画」を保護者・地域へ情報発信し、学校・家庭・地域とが連携できる体制を構築する。</p> <p>◆地域と学校の架け橋としての情報発信を積極的に行い、生徒の生き活きとした姿を身近なものとして感じてもらえる工夫を行う必要がある。</p>

◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的改善方法
○	◎	<p>●災害の発生時には「自分の命は自分で守」を基本とし、まわりにも気配りができるような防災教育を行ってほしい。</p> <p>●朝ごはんは、身体作りの基礎です。保護者との連携がより必要であると考えます。</p> <p>●インターネットやLINE等のメッセージの利用について、家庭と連携して正しい使い方を家族で共有してほしい。</p>
◎	◎	<p>●毎年子どもたちの課題は違うと思うので、常にステップアップにこだわらず、やりきれない課題を自分たちの力で達成することもたいせつであると考えます。</p> <p>●有年中の「誇り」引継ぎ、歴史と伝統を大切に、常に高めるように支援して下さい。</p> <p>●生徒会活動の継続は大切ですが、生徒会に自主性を持たせ、その学年のカラーを引き出し、生徒のやりたいことにチャレンジさせてほしいと思います。</p>

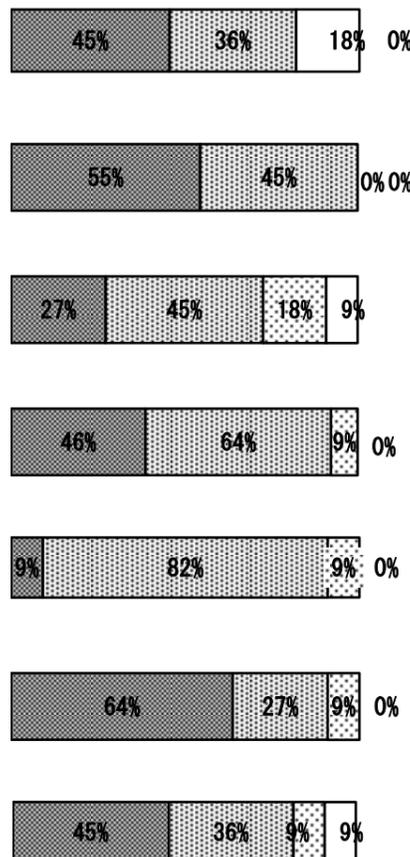
自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的改善方法
○	◎	<p>●今後も個人のニーズに合った教育が推進されることを期待する。</p> <p>●支援を必要としている生徒に発達段階に応じたきめ細かな指導計画が必要であると思います。同時に生徒がみんなで支えられる体制も必要であると思います。</p>

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的改善方法
◎	◎	<p>●常に相手のことを考えることができる重要性、大切さを教育の柱とすることが重要だと考えます。</p> <p>●自主的・計画的に先を見通して行動できるよう引き続き実践してほしい。</p> <p>●いろいろな取り組みで表彰されており、地域の学校として頑張ってもらいたい。</p>

●新たな課題と方策 ◆昨年度からの継続課題と方策

◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない

NO	評価項目	A	B	C	D
24	先輩・後輩をお互いに認め、尊重する学校づくりに努めている。	5	4	2	0
		45%	36%	18%	0%
25	学校行事や生徒会活動での体験活動を多く経験させ、豊かな心を醸成している。	6	5	0	0
		55%	45%	0%	0%
26	地域の行事やPTA活動に積極的に参加し、保護者地域との関係をよくしている。	3	5	2	1
		27%	45%	18%	9%
27	「あいさつ」は相手に対する思いやりを形に表したものと生徒に話している。	3	7	1	0
		46%	64%	9%	0%
28	生徒は掃除をよくしている。	1	9	1	0
		9%	82%	9%	0%
29	駐輪がきちんとできている。	7	3	1	0
		64%	27%	9%	0%
30	一人ひとりの教育ニーズに対応した支援を推進している。	5	4	1	1
		45%	36%	9%	9%



分析と改善の方策

●生徒が保護者と学校のことについて話すことが少なく、保護者も学校に対する関心にばらつきが感じられる。積極的な情報発信がある。また、生徒への指導後は、指導に至った経緯や客観的な事実と共に、指導した内容をしっかり保護者へ伝え、生徒の成長を保護者と同じ思いで対応することも大切である。また、学校としてチームで動く体制づくりを行う必要がある。

◆生徒との信頼関係を築くためには1～3年まで成長過程を見守れる教師が学年一人は必要である。

◆伝統や有年中の文化を大切にしながら、生徒の実態や地域のニーズに沿った取組のプロセスを再構築していく柔軟な姿勢が求められる。踏襲に終わらない。

◆指導方針の柱を具体的で実践的なものとし、その柱を生徒にもよく分かる平易な形で、機会あるたびに示していく必要がある。

◆より質の高い生徒に育てるため、生徒に求める学校生活の規準を教師が意志統一し、日常的に意識していく。

●地震・津波や集中豪雨などの自然災害について、教師自ら情報に敏感になり、生徒に問いかけたり事実を正しく伝えられるようにする必要がある。さまざまな災害に対して生徒や教師も意識を高め、災害時の対応について、学校だけでなく家庭での災害時の対応等話す機会をつくるのが大切になる。学校・家庭・地域の連携が必要である。

◆防災マニュアルを活用し、避難訓練・防災訓練等生徒が自らの命を守る教育を多様な体験を通して構築していく必要がある。

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度の具体的改善方法
◎	◎	<p>◆幼小合同運動会で中学生が幼稚園種目に参加し、園児をおんぶしている姿は、地域の住民として、心が温まる思いがあった。今後も地域貢献できる連携を継続してほしい。</p> <p>●生徒と先生が溝（小さいことでも）が絶対ないように接してほしい。人数の少ない中で、もっともっと生徒同士はもちろんのこと先生とも信頼関係が強くなるように努め、先生方も現状の自己反省も含めて進めてほしい。</p> <p>●有年小学校、原小学校と共に小規模校から進学してくる生徒たちが中学生を送ることになり、現在のすばらしい実践ができていると思われまます。引き続き小学校との連携を強め、よい有年中の実践を続けてもらいたい。</p>

自己評価における特記事項

●「教師の授業力向上」「学び合いのある授業」の実現をめざして、全教職員で取り組んできた。生徒が質問しやすい授業の雰囲気を作れるよう、教材研究を深める必要がある。分からない問題をほっておくことが恥ずかしいことであり、聞けないままだとわからないままであることを伝えていく。教材の小学校からの流れを考え、生徒のつまづいているところを意識した授業の構築に取り組んだ。また、道徳の授業も担任だけでなく、複数の教師が行えた。

●生徒や保護者からの「分かる授業」への期待や要望が出ている。「きめ細やかな支援」をめざした少人数授業やT.Tの推進を実施している。特別な支援を要する生徒に対する個に応じた学習の取組（しぶら教室学習）を継続し、一人ひとりの学力向上に取り組むことが大切である。

◆学校として日頃から取り組んでいることが正しく親に伝わっていないことは残念に思う。積極的に家庭・地域へ情報発信していく必要性を感じている。

◆「きめ細やかな支援」や「学び合いのある授業」は、少人数にすることで可能なのではなく、支援をしていく教員側の積極的な授業改善と生徒の表情や反応から必要な支援を的確にとらえる感性を養うことが重要である。

◆生徒数が少ない中で、生徒自身が他人のことに深く立ち入らない傾向があり、一人ひとりの生徒をより深く理解し、生徒間の人間関係が自然に支援したり、支援されたりできる関係づくりを構築できるよう教員自身の研鑽が求められる。

評価項目以外の来年度の課題や具体的改善方法

●生徒一人ひとりに対して、教師として確固たる信念を持つとともに、何事に対してもこだわりをもって関わってほしい。

●有年中の「誇り」を持ち、今後も地域への貢献を継続指定してほしい。

●実際の学校活動につぶさに見ているわけではないので評価するのはむずかしい。評価のための学校運営になってほしくない。

